

『時事直言』 No.1719 2025年1月9日

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[mail] info@chokugen.com

[X(旧 twitter)] [t_masuda2019/](https://twitter.com/t_masuda2019)

[Youtube] 増田俊男チャンネル/

[instagram] [t_masuda2019/](https://www.instagram.com/t_masuda2019/)



時事評論家 増田俊男

トランプの頭の中は中国だけ

小冊子 Vol.146 の最初の章で、「2025 年はアメリカが乗るか反るか」の年

として、「トランプの眼中には中国しかない」こと、従ってウクライナ戦争の停戦の狙いも実は中国を念頭に置いたものであることを解説した。

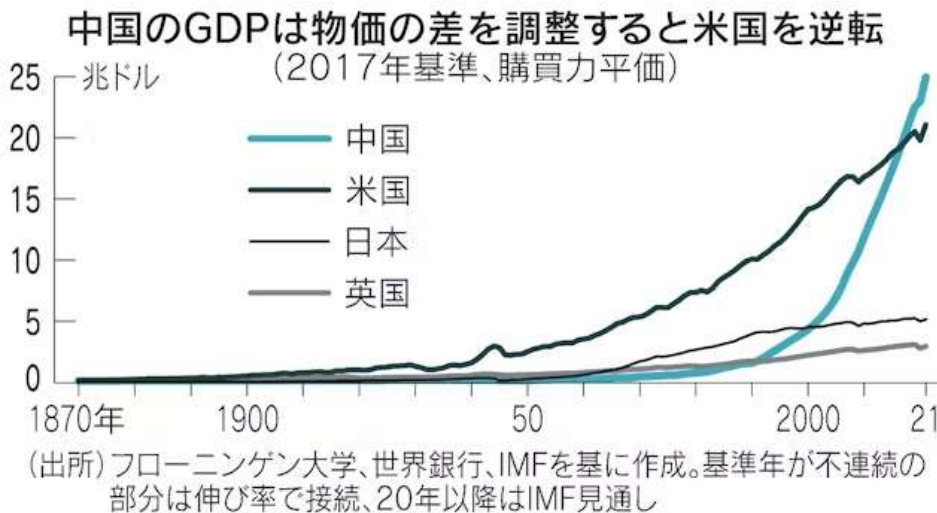
トランプがことさら中国を「目に敵」にするのは「アメリカが中国より弱くなった」からである。

「王座は何時までも維持できない」のが世の常であり、生きとし生ける者の摂理である。

先頭走者は何時か必ず二番手に追いつかれ、追い越される。

資本主義の世界では「資本が中心的価値観である」。

購買力平価(通貨の購買力をベースにした正しい通貨価値)をベースにした米中日英の GDP 比では、8 年前の 2017 年にアメリカは中国に抜かれている。



1996 年私が横須賀市の大学の創立 50 周年記念祝賀会での講演を依頼されはじめて日本に民主主義の根幹とも言うべき Accountability アカウンタビリティ(説明責任)の概念を紹介することになり横須賀線で大学に向かっている時隣の乗客が読んでいた新聞の一面の写真と見出しが目に入った。アメリカのカンター通商代表が橋本通産大臣の首に日本の竹刀を突き付けている写真と「日本車の対米の輸出自主規制概ね合意」という見出しであった。

日本車は米車より技術的に優れていて燃費が良いので米市場を日本車が席卷し、米車は市場を失う状況であった。

クリントン大統領は自動車関連のみならず繊維をはじめあらゆる日本の対米輸出に高関税をかけた。
(ジャパンバッシング)

今のトランプの対中政策と同じである。

アメリカは強くなった外国産業に規制や関税を掛けて弱くなった自国産業を保護する伝統がある。
米市場における今日の日本車がどんなステータスかを見れば、トランプのチャイナバッシングはアメリカ経済の将来に何の意味があるのが分かる。

50年先の世界を達観してアメリカを指導して来たキッシンジャーはもういない。

程度の悪い指導者が程度の悪い産業を保護するアメリカの悪しき伝統が又息を吹き返してきた。

もし私が日本のキッシンジャーなら日本に「君子危うきに近寄らず」と言うだろう。

小冊子 Vol.146 の最後の章、「トランプのアメリカ・ファーストで日本はどうなる」も最初の章と共に読みください。

大好評配信中！増田俊男の「インターネット目からウロコの増田塾」

いつでも繰り返し何度でも視聴可能！

皆様からのご要望にお答えし、「株式指南」を継続的に配信するコンテンツをスタートします。
是非、この機会にお申し込みください。

【配信予定内容】○損をさせない「早朝株式指南」○本日の世界政治・経済情勢の裏（真実）
★いつでも繰り返し何度でも視聴可能。ご視聴方法：PC・スマートフォン・タブレット ※Youtube の視聴環境が必要となります。詳しいご案内、お申込みについてはマスタ U. S. リサーチジャパン株式会社（FAX：03-3956-1313、HP：<http://chokugen.com/>）まで。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、
事前にマスタ U.S. リサーチジャパン株式会社（FAX：03-3956-1313）までお知らせ下さい。